

平成30年度 第3回 豊見城市総合教育会議 議事録

1 開催日時 平成31年1月17日(木) 午後2時25分から

2 開催場所 豊見城市役所 4階 第1会議室

3 議 事

(1) 平成31年度当初予算案について

4 出席者

[構成員] 市長 山川 仁 教育委員 荷川取 幸代
教育長 照屋 堅二 教育委員 安里 基
教育委員 国吉 昇 教育委員 惣慶 貴子

[関係者] 教育部長 濱里 和宣 学校施設課長 国吉 有貴
生涯学習振興課長 上地 五十八 文化課長 當銘 純治
学校教育課参事 大湾 悟 福祉健康部長 當銘 健
保育幼稚園課長 比嘉 豊 保育幼稚園課参事 奥濱 真一

[事務局] 学校教育課長 赤嶺 太一
学校教育課総務班長 大城 竜也

◎ 会議の要旨

<p>学校教育課長</p>	<p>皆さん、こんにちは。今日の教育委員会に続きまして、平成30年度第3回豊見城市総合教育会費を開催してまいりたいと思っております。</p> <p>お手元のほうに資料があるか、確認をしていただきたいと思います。まずA4縦の会議の次第などが記されている紙、1枚紙のほうですね。これに加えまして、2つの別添資料が添付されているかと思えます。別添資料につきましては、資料ごとに書類の右肩に番号がついています。別添資料は、平成31年度当初予算案ということですね。別途になっています。これをもとに今日は主に、総合教育会議につきましましては、新年度の予算骨格について、詳細について説明を差し上げる場所ではありますが、今は内示の段階でございますし、おおむね実施計画で上げられているようなものを説明しながら説明をしていきたいと考えております。</p> <p>今回の会議につきましては、市長が招集することになっておりますので、山川市長のほうで進行をお願いしたいと思っております。お願いします。</p>
<p>議長(市長)</p>	<p>皆様、こんにちは。新年明けましておめでとうございます。また本年もよろしく願いいたします。</p> <p>それでは本日、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。第3回豊見城市総合教育会議を始めていきたいと思えます。</p> <p>まず、本市の教育行政の推進に格別なるご理解、ご協力をいただいておりますことに、心より感謝を申し上げます。</p> <p>それでは本日の議事に入りたいと思えます。まず(1)平成31年度当初予算案についてですが、当初予算案については事務局のほうから説明をお願いいたします。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>まず最初は、総体といたしまして、教育予算のほうを別添資料1ごとにご説明を差し上げていきたいと思っております。説明は、まず学校教育課、課別にご説明をしていきたいと考えているところでございます。</p> <p>それでは説明してまいります。まず、別添資料の1ページ、義務教育の充実のところでございます。(1)教育プログラムの充実でございます。見ていただけたらと思えます。</p> <p>まず1つ目、外国人英語教師配置事業につきましては、例年どお</p>

り。学校教育課全体の予算につきましては、おおむね例年どおり、当初予算が大変厳しいと。収支バランスが今でも10億円合わないような中で内示を出している状況にあって、教育予算を十分につけていただけていると考えています。従前以上にまたつけていただいているところもありますので、そこも説明しながら行きたいと思っています。

また、外国人英語教師配置事業につきましては1,195万8,000円ということで、各中学校1名ずつ、外国の先生を配置しております。引き続き配置してまいりたいと思っています。続きまして、小学校英語活動講師派遣事業につきましては1,201万円で、これは今年度より小学校の英語の時間数が正式教科化に向けて増えてまいります。それに伴って増額で認められて、内示が出ているところでございます。正式教科化されて先生方が慣れるまでの間、きちんとした支援をしたいということで、小学校の国際英語センターというNPO法人が、英語のできる日本人の方を教室に派遣をして、先生と一緒に授業を進めるということでありまして、学校訪問で多分ごらんになったかと思えます。先生が2人いて、小学校で楽しく授業をしているのを見ていらっしやると思えます。その授業を引き続き、先生方の支援を強力に進めていきたいと考えているところです。

続きまして、学力向上推進補助員配置事業ですね。これは2,761万円内示が出ております。これは各学校1人ずつ、学力向上の推進補助員を1人置いて、学校長の裁量で児童の支援が必要なところに配置をして、従前どおり進めてまいりたいと思っています。

続きまして、情報教育補助員派遣事業につきましては、3名枠をとってございまして、電子黒板、あと、このような教室等支援について、従前どおり進めていきたいと考えているところでございます。

次の2ページを開けていただけますでしょうか。金額、そうですね。606万3,000円となっております。すみません、次のページですね。

続きまして、児童生徒派遣費補助金事業、これは中体連等、あと部活関連で派遣が出たものについて、半額を限度に支援をしていくというものでございます。その額は448万円ということで、確保されているということでありまして。下の事業の切り分けは、学校教育課が所管しているものについては、中体連関連の部活、それ以外の団体のものについては、生涯学習振興課が所管をしていると。一つの要綱等で経理は違うという形になっております。448万円ですね。

続きまして、(2)教育施設・設備等の充実、これは事業名 校務外部接続用パソコン整備事業ということで、学校教育課。これは昨年度

末から今年度、校務システムを導入して、学校の働き方改革等という
か、業務改善に努めているところでございますけれども、それに伴っ
て、中学校における校務に必要なパソコンを継続的に整備する必要が
ありますので、810万円で整備していきたいと思っています。

続きまして、下のほう。教師用タブレットPC整備事業というの
は、これも何のことやらということもございますけれども、電子黒板
の後ろにパソコンがついています。今、ノートパソコンがありますけ
れども、タブレットに切りかえて、先生方もこれを使いながらでき
るようになっていると思います。主たる目的は、今、パソコンに入
っているOSがWindows 7と言われているもので、あと1年
ぐらいでサポートがなくなるものですから、その置きかえというこ
とで理解をいただけたらと思っているところでございます。タブレット
整備事業として5,070万円であります。大分大きな金額であります
が、その整備を進めてまいりたいと思っております。

次の3ページ、(3) 家庭や地域との連携ということでございます。
スクールソーシャルワーカー配置事業といたしまして708万1,000円と
いうことで、これは先ほど荷川取先生からもあったように、問題行動
やいろいろな課題を抱えている方のサポートとして、ソーシャルワー
カーを置いて問題解決を図っているということで、各中学校区に1人
配置していくという形になっております。708万1,000円になっていま
す。

続きまして、(4) 個に応じた支援体制の充実ということで、特別支
援・教育支援員配置事業ということでございます。これは6,383万
7,000円ということでありまして、これは各小中学校において、特別支
援教育の対象児に対して配置をしていくということでございます。新年
度は少し時期の見直しを考えておりまして、1,100円程度にして、人数
を29名ということで見積もって、取り組みをしているところでござい
ます。

続きまして、適応指導教育学習支援補助員配置事業でございます。
これは502万1,000円。これは陸上競技場の下のほうに適応指導教室
を、在籍校に通えない子どもが在籍しているところでございます。配
置事業ということで2名分の額という形になっております。

続きまして、事業名 登校支援員配置事業(学校教育課)のほうで
す。これは380万円。これは登校支援員ということで、不登校、もし
くは登校渋りのある児童について支援をしていくということでお願いを
して、今、巡回していただいているところです。それにかかる費用と

	<p>いう形になっております。</p> <p>続きまして、学習支援補助員配置事業ということでございます。この事業につきましては251万1,000円ということで、不登校や問題行動のある子どもの指導や学習支援を行うということでありまして。これまでは各中学校に1人ずつ配置を確保していたところでありますけれども、新年度からは問題行動も少なくなっていて、1人置いて、課題のある学校のほうに配置をしていくという形になっております。ご理解いただけたらと思っております。一括交付金事業が少なくなっていく中で、やはりメリハリをつけていきたいということで小学校の英語事業のほうに、減じたものについては振り分けていくということでご理解いただけたらと思っております。</p> <p>次の4ページ、子育て環境の充実。(1)子どもの貧困対策の推進ということ。就学援助補助事業ということで9,811万4,000円。これは県の子どもの貧困対策推進基金、あとは一般財源を使いながら給食費の拡充、あと準要保護の学用品費、修学旅行費等について行っていくということになってございます。</p> <p>冒頭でご説明しましたとおり、おおむね次年度も今年度、またそれ以上に教育施策が充実できるような予算配置がされているというふうに理解しているところでございます。学校教育課の説明は以上であります。</p>
<p>学校施設課長</p>	<p>それでは、学校施設課に係る平成31年度予算について説明いたします。</p> <p>資料の2ページをお願いします。2ページの下から2事業目からお願いします。豊見城中学校改築事業についてですが、豊見城中学校は老朽化により構造耐力が低下しており、学習環境に不安を抱えている状況であることから、改築を行い、施設整備の改善を図るものであります。豊見城中学校につきましては、平成29年度に工事に着手しておりまして、現在は普通教室棟と屋内運動場（体育館）を建設している途中であります。平成31年度は、普通教室棟と屋内運動場の完成後に、現在のC棟と屋内運動場を解体、取り壊しを行って、特別教室棟の建築工事に取り組む予定であります。事業全体としては、平成32年度の事業完了を目指しております。平成31年度、次年度は19億9,507万9,000円の事業費を一次内示としていただいております。</p> <p>次に、伊良波小学校校舎改築事業につきましては、児童生徒数の増加に伴い、教室不足が生じることから、RC造（鉄筋コンクリート造）の校舎を増築し、教室の確保及び学習環境の向上を図るものであ</p>

	<p>ります。平成31年度は実施設計を行い、実施設計が完了次第、工事を発注する予定であります。工事は、平成32年度末の完成を目指して継続しております。</p> <p>それでは3ページをお願いします。3ページの一番上のほうですね。伊良波中学校校舎改築事業につきましては、生徒数の増加に伴い、教室不足が生じていることから、豊崎中学校の分離新設を行うまでの期間について、プレハブ造の校舎を借り上げて増築し、暫定的に教室の確保を行うものであります。平成31年度にプレハブ校舎の建築を行いまして、平成32年度からリースという形で供用開始をする予定であります。リースは平成32年度、33年度、34年度までの3年間のリースをしまして、平成35年度には解体する予定で事業を進めております。このプレハブのリースに係る費用として、平成31年度から平成35年度までの費用として3,500万円、現在、一次内示を受けておりますが、この総額3,500万円につきましてはもう少し増やせないか、現在、調整中であります。学校施設課は以上です。</p>
文化課長	<p>続きまして、文化課所管の事業の内容について説明いたします。</p> <p>資料は4ページですね。地域文化の振興。(1)歴史的・文化的資源の保全・継承ということで、まず組踊継承事業 組踊「雪払」上演台本作成事業でございます。文化課は74万5,000円でございます。これにつきましては、今年度1月27日に中央公民館で行われる雪払の上演を、平成28年度に台本の補正を行った後に、今回上演を予定しております。その上演が終わった後に、所作、台本を平成30年度に完成していきたいという予算になっております。</p> <p>次に、埋蔵文化財確認調査事業が4,099万7,000円でございます。これについては、豊見城城址公園跡地の利用計画とあわせて、埋蔵文化財の調査を行うことで、埋蔵文化施設の適切な保護を行うということで予算化されております。</p> <p>次に、埋蔵文化財確認調査事業と打たれておりますが、埋蔵文化財発掘調査でございます。これについては、773万4,000円。これについては、沖縄県工芸産業拠点施設の建設予定地内で埋蔵文化財の発掘調査を平成30年度、今年度実施しております。それを受けて、埋蔵文化財の報告書の作成を行っていくということでございます。これは県の委託金で行います。</p> <p>次に、文化財案内表示板設置事業。これについては541万2,000円。これは一括交付金を活用した事業になりますが、市内の文化財へ案内する案内板標識を設置し、文化財へ訪れやすいような環境を整えてい</p>

	<p>きたいということでございます。これは平成30年、31年という形で実施していきたいということでございます。</p> <p>次に、(2) 市史の調査と記録。豊見城市史第5巻「社会と文化・教育編」編集事業ということでございます。これは一次内示、724万2,000円でございます。これは主に、戦後沖縄の社会・文化変容について調査、資料収集を行い、発刊することにより、豊見城市の社会情勢や歴史を後世に伝えるということによって現在実施しながら、平成30年度も継続的に実施していくということでございます。</p> <p>それから、これには載っていないのですが、文化課所管の図書館もでございますが、例年どおりの予算の内示となっております。以上でございます。</p>
<p>生涯学習振興課 生涯学習班 長</p>	<p>生涯学習振興課の平成31年度の当初予算をご説明します。今日は上地のほうが欠席してはいますが、私が代理で説明したいと思います。</p> <p>まず2ページのほうをお開きください。事業名としては児童生徒派遣費補助事業です。先ほど学校教育課長からもお話しがりましたが、この事業は中体連等の部活動以外の事業で県外等へ派遣される事業となっています。概要としては、本市の小学生及び中学生のスポーツや文化活動に係る県外への大会派遣に対して、交通費及び宿泊費の一部を補助するというふうになっています。</p> <p>あと最後のページ、5ページをお開きください。生涯学習社会の確立として交流事業がありますが、豊見城市青少年国際交流事業。一次内示の額としては862万2,000円。これはハワイの豊見城村人会の協力を得ながら、豊見城市の青少年リーダーを海外に派遣して、現地の青少年団との交流を図ることにより、国際化時代に対応できる人材を育成しております。</p> <p>以上が生涯学習振興課の事業となっています。</p>
<p>保育幼稚園課 長</p>	<p>続きまして、資料の1ページをごらんください。幼児教育の充実の部分でございます。福祉健康部の教育幼稚園課のほうからご報告いたします。</p> <p>まず(1) 教育プログラムと施設の充実の中で、まず事業名 子ども・子育て支援事業計画策定委託業務事業となっております。こちらが予算要求の満額、一次内示額が140万4,000円。概要としましては、平成27年度に策定して5年間の期限が来ている、子ども・子育て支援法に定める第二期計画の策定に向けた業務支援委託内容となっております。</p>

	<p>ます。スタートする時期が、平成32年から5年間運用していく計画となっておりまして、本計画は、子ども・子育て会議の承認を得て策定されることとなっております。続きまして…。</p>
<p>保育幼稚園課 参事</p>	<p>認定こども園給食業務委託についてございます。一次内示額2,835万1,000円となっております。こちらのほうは公立の認定こども園として、上田こども園が1園残りますが、これまで学校給食のほうで検討をしてきたところなんですけれども、アレルギー除去食等、学校給食との違いがありまして、今回、ケータリングのほうを検討することとなりました。日程的にも、準備行為として今年度、債務負担行為で準備させていただきます。1月、今週末にプロポーザルの公募ということでホームページで公募をかけて、2月7日にその審査を行う委員会を実施してまいります。以上です。</p>
<p>議長(市長)</p>	<p>終わりましたか。ありがとうございます。</p> <p>それでは今、説明があったとおり、平成31年度の当初予算案についての説明でしたが、後ほど各委員の皆さん方からもご意見を賜りたいと思いますが、まず私の所感を少し述べさせていただけたらと思っております。</p> <p>ご承知のとおり、先ほどお話があった子どもの貧困対策の事業の中で就学援助の補助事業がありますが、期間も基金もそろそろ底をつきそうな感じになっております。今後の支援対策として、その先を見据えた対応策をどのように今回していかなければいけないのかというのも、早急に担当部局を含めて、いろいろな財政的な面も全庁的にあわせて考えていかなければいけないのかと思っております。</p> <p>今、伊良波小中の増築のお話もありましたが、中学校に関してはプレハブを設置予定でありまして、ご説明があったとおり、豊崎中学校を新設する予定で進めておりまして、その中でのプレハブの設置となっております。設置箇所等につきましては、まだ検討中だと思えますが、もちろん子どもたちの安全も配慮し、そして建物がプレハブになったからといって、できるだけ低下しないような学習環境をつくっていただくような議論も今後必要なのかなと思っております。</p> <p>豊崎中学校の話についても、この大きな予算案の中には入って来ていませんが、今後さまざまな角度から調査もしながら、どのような可能性があって進めていけるのかというのは、また教育委員会の委員の皆さん方のお知恵もかしていただければと思っておりますので、後ほどのご質疑の中でお話しいただければと思っております。</p>

	<p>また他には、生涯学習振興課の所管になるかと思うのですが、今回、今の説明の中にはなかったのですが、この2019年、新年度がオリンピック・パラリンピックのを迎える最終年度となっております。そのときに豊見城市としてはどのような誘致を受けて、日本全体でオリパラの活性化に向けて進めていくのか。推進協議会というのもありますので、そこら辺の対応と、また子どもたちとのオリンピック・パラリンピックの環境づくりとか、そういうもろもろも含めて、今回の総合会議の中でも議論があればありがたいなと思っております。</p> <p>簡単ではありますが、所感としては以上になりますが、やはり旺盛な人口需要と、また財政も伴ってきますので、できるだけ無駄を省きながら、しっかりとした教育環境に努められるように、みんなで知恵を出して取り組んでいければと思っておりますので、ぜひご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げ、簡単ではありますが、ご挨拶とさせていただきます。</p> <p>それでは、また教育長のほうからも一言ご挨拶をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>教育長</p>	<p>まず、平成31年度予算全体を見まして、教育委員会が要望している内容がほとんど認められていると、私自身は感じています。特に、小学校英語活動派遣事業については、小学校の英語が教科化されていくということでの心配もありましたけれども、そういう中においてT1、T2でやれるような状況ができていくと。それによって子どもたちの英語授業が浸透していくということが、さらに確立されていくであろうという思いもありまして、先ほどもありましたが、小学校英語授業については今後の授業に力を入れるという意味であったということも、私自身も認識しておりましたので、今回ほとんど認められておりますので、これについては大きな成果があるものと考えています。</p> <p>若干、中学校の学習支援という形が減ったのは、これまで一括交付金を活用していて3人配置していたのですが、状況を踏まえた場合においても、もう3人を配置する必要はないのではないかという思いも若干ありました。それについては見方にいろいろ違いがあるので、それが全ていいということではないのですが、若干、その辺も含めて我々としては、この予算については、減の部分についてはある程度、必要な分を認めていく。必要な部分に予算を増やしていく。その対価として、やはり減らす分をみずから、我々自身が判断していくことも必要だなということもありまして、全体の予算の枠というのが広がるというのは、なかなか厳しいというのがありましたので、私自身は、</p>

	<p>今回の予算については、ある程度、教育委員会のほうの予算は認められたというのがあるのかなと感じています。</p> <p>また、中学校の学校施設の19億円という、20億円近い工事費が計上されました。これにつきましても、毎日隣のほうで見ているものがあるって進んでいる状況もあります。中学校の事業においては、5階建て、あるいは4階建てというような高層化はされているのですが、教育環境の整備が進むという前提で私自身も捉えておりますので、予算について、早目に今回の事業が終わることについては、よかったというふうに安心をしております。以上が私の感想です。</p>
議長（市長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは各委員の皆様方から少しご質問がありましたら、ぜひ挙手いただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
国吉委員	いいですか、一つ。
議長（市長）	はい、よろしくお願いします。
国吉委員	学校施設課から伊良波中学校のプレハブの説明がありましたが、教室は何教室の予定でしょうか。
学校施設課長	4教室を予定しております。
荷川取委員	今、ちょうど教育長からお話しがあったので意味がよくわかりましたけれども、学習支援補助員が中学校は1人というふうな配置になるというのがあったので、これはどの学校ではなくて市に1人という形の予算を組んでいるということですね。そのことについては、必要に応じて学習支援に回るといえることでしょうか。
学校教育課長	問題行動とか、そういう子どもたちが対象という形になっていて、各小中学校に11名の学力向上推進員が入りますが、それ以外に、中学校においては3名、問題行動を含めて対応をしてくれておりましたが、問題行動自体は少なくなってきているので、そういう意味で市全体で1人配置して、学校と調整しながらどちらかの学校にという形で対応させていただきたいと考えております。
荷川取委員	<p>ありがとうございました。</p> <p>その他に、この学習支援補助員の県の派遣とか、何か生徒指導に関するものはまだ続いていましたか。</p>
学校教育課参事	生徒指導に係るのは、加配という形で今年度もあるかなと思います。これは内示が来ないとちょっとわからないですが、継続はしていくかなと思っております。
教育長	前に荷川取先生がやっていたころにあった問題行動関係の県の事業

	は終了しまして、それ以降は全部単費だったんですよ。それで去年か一昨年か、去年の段階でもうなくなった。
荷川取委員	<p>学校がいろいろ工夫して、こういう子どもたちが減ったのでということに理解していきたいと思います。</p> <p>あと一点、登校支援員の配置事業の件について、これまで同様かなと思いますが、人数については報告がなかったので、報告。</p>
学校教育課長	人数は一緒でございます。
荷川取委員	<p>はい、わかりました。ありがとうございます。</p> <p>どうしても登校を渋る子どもたちを担任が世話するという事は、なかなか全体にかかわって授業ができない場合があるので、ぜひまたこれも続けていただけたらありがたいなと思ひまして、今、確認したところです。ありがとうございます。以上です。</p>
議長（市長）	他にございませんか。
惣慶委員	<p>教師用タブレットの整備事業についてなのですが、私もタブレットだとすごく操作しやすいのではないかと。私も何度か電子黒板を使わせていただいたのですが、後ろのほうに回っての操作よりは、タブレットがいいなと思ひました。</p> <p>そこで2点質問なのですが、1点目はちょっと基本的なことですが、恐縮なのですが、持ってきたデータを、USBとかで差し込んで電子黒板に映す場合は、キーボードのかわりにタブレットを使うような感じになるので、電子黒板にデータを差し込む口はあるんですよね。</p>
学校教育課長	電子黒板は表示になっているので、基本的にはタブレットからデータを表示する形になります。
惣慶委員	ということはタブレット側のほうに、私は外部講師としてよく小中学校で授業をさせていただくんですけども、USBでデータを持っていくことが多くて、それもタブレットのほうに差して…。
学校教育課長	タブレットのほうに入れていただく形になるかと思ひます。
惣慶委員	<p>わかりました。ありがとうございます。</p> <p>あと2点目が、Windows 7からバージョンが変わるという…。</p>
学校教育課長	Windows 10に多分、変わるかと。
惣慶委員	10にかわるということで、今後もバージョンが変わったり、サポートがなくなったりするたびに、この予算というのは定期的に切りかえで発生していくものではないでしょうか。
学校教育課長	はい、お見込みのとおりです。そのとおりです。

惣慶委員	わかりました。
学校教育課長	ただ、Windows 10に関しては、サポートが終わるかということについては、どちらかというとその前に機械が壊れないかどうかというところが。10については大分サポート期間が長いというふうに。ハードウェアのスペックが、それに耐え得るものになるかどうかというところがありますので、懸念事項としては、タブレットに関してのバッテリーのもちの問題が、通常のノートパソコンよりも消耗が多いということもあって、今回試しで入れながら、その使い具合を見ながら判断していきたいと考えているところです。いずれにしても3、4年から5年ぐらいでの更新になるかなと思っています。
惣慶委員	わかりました。ありがとうございます。
議長（市長）	他にございませんか。
安里委員	豊崎中学校をそちらに建てるという前提でというお話がありましたけれども、建てる予定にして、大体見込みとか、何年とかをつけているのか。やはりお子さんが増えないと建てられないなど。その区分とか、いろいろ考え方が難しい点もあると思うんです。やはり人が増えないと学校を建てられないと私も承知しておりますけれども、それに向けた市の対策とかも聞いてみたいなという気がします。
学校施設課長	施設課のほうからお答えします。 豊崎中学校の建設については、次年度。今回、本来は基本設計ということで要望は上げていたのですが、豊崎をやろうということで上げていたのですが、これは今ゼロ査定になっています。切られていました。今回、再要求、復活要求ということで、まだ基本設計には早い段階かなということで、基本設計に入る前に基本計画という形で、まずは平成28年度に行った児童生徒数の推計結果があるんですけども、これもまたさらに情勢が変わってきていますので、これの見直しを行って、新たに児童生徒数の推計を行って、将来的にどうなるのかというのを見据えながら、また建設の可能性を探っていきたいなど。それに加えて、また将来の生徒数を見て、中学校をつくるのであればどの規模でつくろうかという規模と、あと配置計画ですね。あとは、豊崎地区が低地にあることから、津波の避難場所の確保が必要かどうか。必要性は、まずは必要がなければお金をかける必要はないと思いますので、その辺の必要性をまず検討していきたいと考えています。その調査委託料を復活要求で今から上げようと思っています。その調査結果によって、建築のスケジュールが具体的に見えてくるのか

	<p>など考えています。</p>
<p>教育部長</p>	<p>それとあわせて、事業費が幾らかかるかも説明をお願いします。</p>
<p>学校施設課長</p>	<p>そうですね。それとあわせて事業費と、事業費の中の財源内訳ですね。市の負担がどれぐらいになるかとか、そういうものも見ながら建設計画は立てていかないといけないのかなと考えています。以上です。</p>
<p>安里委員</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>実際、豊崎寄りとか、与根寄りとか、学校がちょっと遠いので、あったほうが便利かなと思うんですけども。よくお父さん、お母さんから「まだ建たないの？」とか、よく私も言われるんですけども、建つか建たないかの話もまだゼロだよということでしか返答はできないものですから。今後に向けて頑張りますという返答でいいですね、じゃあ。はい、わかりました。ありがとうございます。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>補足をさせてください。</p> <p>今後の児童生徒の伸びというところが少しあるかなと思います。数字については、これから正式に詰めていきます。今、粗々で見ている中でも、向こう10年以内ぐらいのところは伸びる予定になっています。伊良波中校区は増加傾向になります。それを踏まえて増築という形になっていますので、そういう意味での児童生徒の伸びの圧力がまだあるかなと思っているところでございます。</p> <p>あともう一つ、豊崎中を考えるに当たっては、やはり校区の問題をどのように捉えていくのかというところが出てくるかと思えますけれども、ただ、校区の問題は親御さんにとって非常に重要な問題でもありますので、軽々にこのように線引きを引き直しますというふうにはちょっといかなくて、そこの児童生徒の伸びと校区をどのように弾力化をしながら誘導していくかとかも含めて、総合的に捉えていく必要がある。ただ、全国とは違って、うちはまだしばらくの間、増加傾向にあるということは確実にありますので、何らかの対策は必要になってくるだろうと考えております。今後、計画の中で特定、豊崎中の希望だとか、どういう中学校で行くのかということを含めて、将来推計を見ながら、また慎重に検討していく必要があるかなということですので。以上です。</p>
<p>議長（市長）</p>	<p>ありがとうございました。他にありませんか。</p>
<p>国吉委員</p>	<p>すみません、タブレット導入の件ですが、今言っているのは教師用タブレットということで説明があったかと思うんですけども、タブ</p>

	<p>レットを活用した授業をイメージしたら、例えば教師用タブレットというのは電子黒板、プレゼンテーションだけのものであればタブレットじゃなくてもリモコンで切りかえは可能ですよね。授業だったら生徒がグループ活動しながら生徒用も使って、生徒がタブレットを操作しながら発表したりというイメージとかもあるんですけども、これは教師用ということなので、市内の学校にどれぐらいの数で、あるいはタブレットを活用した授業のイメージとか、構想とかというのがもし、その辺があったら教えてください。</p>
学校教育課長	<p>はい、わかりました。</p> <p>今回のものは、電子黒板の後ろについているノートパソコンを置きかえる形でタブレットを導入したいということですから、電子黒板の数は300台余りぐらいですか。そのあたりの台数を整備していくということになります。その先生用と言っているのは、今までは電子黒板の後ろにあって、先生は電子黒板を電子ペンをペッとやりながらウィンドウズを操作していくんですけども、例えばタブレットを持って出て書き込みをしたり、操作を直接しながらそこを映していくことができるだろうということがあるのと、現時点では児童生徒にタブレットを配布するような財政的な余裕がないものですから、実際の先生方にはまずタブレットに慣れていただいて、そういう教材の研究等、慣れることを少し、この機会に伴って試験的に、先行的に先生に活用していただいて、その活用の中で今後、授業に必要なになってくるのであれば、今後中長期的に財源の確保も含めて、新規の導入も視野に入れながら、今後検討していきたいと。現時点では、児童生徒のところまで、グループ活動までタブレットを配置していくところについては、まだちょっと先かなと思っております。ただ今年度、ドコモのiパッドを使っての試験的な導入をやったところであります。可能性については見えてきているところではありますが、ただ、そこを全学校に導入してというところまでは、いましばらくの時間をいただきたいと考えているところです。</p>
議長（市長）	ありがとうございます。他に。
国吉委員	ちょっといいですか。
議長（市長）	はい、どうぞ。
安里委員	文化課のほうで、文化財案内表示板設置事業の541万2,000円とありますが、これは看板設置だけですか。例えばネットのほうとか、アピールとかも全部も入っているのか。

文化課長	平成24年度から平成28年度の一括交付金事業で文化財の説明板というのを設置しております。その後、パソコン等や地図アプリで検索できるような状態にしておりますけれども、どうしてもその辺の操作がうまくいかなくてというか、その操作ができない方が文化財に到達するにはどうしたらいいかということなので、やはり現実的に現地に案内表示板を設置して、その人たちのためを含めて案内板を設置して、現地に赴くことがスムーズにいけるような形の体制をとりたいということが今回の予算化の目的でございます。
安里委員	地図アプリにはとりあえず。
文化課長	今、ネット環境で地図アプリ、いろいろありますので、その中で文化財の名称を検索するとすぐ出てきますので、そういうことでございます。
議長（市長）	他にございませんか。
国吉委員	質問ではないのですが。 昨年度までに予算があって、執行できなかったものは他にあるんですよね。特別支援教育の支援員が、結局なかなか人材が人手不足で、学校にそういう人がつけられないという状況があったので、今回、時給も上がったということもあります。ぜひ、いただいている予算がちゃんと執行できるような形で人材確保ができればなと思うんですが、今、他の非常勤とか、県のほうでも人事が、人がいなくて頭を痛めている状況ですけれども、今、大学卒業したての教員を目指している人たちの人材の確保ができれば、学校にとっても、また将来を教員を目指す人たちにとってもとてもいいと思うのですが、言ったことをもっとPRをして、ぜひ人材確保ができるような努力が必要かなというふうに感じていますので、他の市町村に負けないようにですね。頑張ってお集めもできればと思います。私どもできることがあれば、お手伝いできればと思います。よろしくをお願いします。
学校教育課長	今、ご指摘のところは、大学の学生部あたりに行ってお卒の確保も含めてということだと思いますので、そこは大湾先生と確認をしながら進めていきたいと考えております。ご提案ありがとうございます。
議長（市長）	他にございませんか。 私から少しお話しさせてもらいたいのですが、先日、各市内の女性団体の皆様方と、昨日ですけれども、市長と語る会というものを行いました。1時間半みっちり、いろいろなお話を聞かせてもらったのですが、その中で一つ、子どもの貧困について無料塾をしたり、該当す

	<p>る子たちに食事を提供したりとか、そういう事業をしています。それが本来の該当する子どもたちにきちんと提供できているのかというお言葉をいただきました。本来、そういう該当するような家族に、保護者に声をかけると、「私たちはそういうのは必要ない。一日一食だけでいいよ」というような形で拒否をされたりする環境があって、なかなか貧困対策につながっていない人たちも多くいるんですよという現状の話をされていました。その中でこういう事業の取り組みをひとつ、もう一つ踏み込んで整理する必要があるのかなというふうに感じました。しっかりと該当するたちが、どういう環境にいるのか。また、該当する人たちが、それをしっかりと支援を受けているのか。受けない理由は何なのかとか、そういうもろもろを含めて、今回委託を受けている事業者の方々にも、しっかりとその対応に取り組んでいけるようなものをして、かつ、もちろん保護者の方々、子どももそうですけれども、社会環境のマナーだったり、いろいろな生活改善をプラスに持っていかないと、この負の連鎖というのは断ち切れないと思いますから、簡単な話ではないと思いますけれども、そこをどうにか、今までどおりのやり方ではなくて、少し踏み込んで、もう一步、支援員の方々と連携をどうとるのかとか、この横のつながりをしっかり充実させるような取り組みも必要ではないですかという、女性ならではの見解をいただきました。ですので、学校現場の方々、また支援を受けている、委託されている事業者の方、そして教育委員の皆さん方、あと行政、教育委員会、みんなで一体となって、このあたりの取り組みを再度洗い出す必要があるのかなと、少し昨日のお話の中で感じた部分がありましたけれども、このあたりについて何かご議論があれば教えていただければと思います。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>総体の議論を少しさせていただきたいと思います。</p> <p>教育委員会の関わる、特に学校教育でいうと就学援助が一つあります。ここは拡充をしながら、全世帯に申請用紙も含めて、一式を各学校全員に対して配布をして、この制度がありますという、その周知を今取り組んでいて、年々増えていっている現状があります。基金が足りなくなることが心配ですけれども、そこの面はやっています。</p> <p>あともう一つは、特に支援が届いていないかもしれないというご発言がありましたけれども、学校では、今、問題のある子どもについては、家庭に問題があったり、そういうことについてはきめ細かく学校の先生方に見ていただいて、就学援助の声かけをしたり、また不登校で家庭に事情がある場合は、登校支援員の方に見ていただいたり、そ</p>

	<p>ういう間でスクールソーシャルワーカーという事業が先ほどあったか と思いますので、そういう方々が問題行動、まずこういう児童に課題 があれば、子育て支援課や保育幼稚園課や、あと社会福祉課等と連携 をしながら、大湾先生も入って、個別・具体的な事案ごとに、この ケースはこういうかかわりで行きましょうねということ、会議を 持って、定期的にできるだけ救えるような形できめ細やかに取り組ん でいます。毎月報告書も上がってきていて、そこは継続的に、本当に 困っていることについては、できるだけ学校が気づいたものについて は拾えているかなと思っております。</p> <p>また、生涯学習のほうでは、放課後の居場所づくりも含めて対策を したりしているので、教育委員会としてはできるだけ子どもに接して いるところについて、取りこぼしがないような形での努力は、現状と しては進めているところであります。</p>
議長（市長）	<p>ありがとうございます。</p> <p>他に、委員の皆様方から何かございましたら。</p>
教育長	<p>スクールソーシャルワーカーは、中学校ごとに今3人配置していま す。ただ、実態としてなかなか、結局、親がどうかかわりを持っ て、そういう状況を学校側と一緒に歩いていくかという部分 が、その辺に壁はまだあるのかなというのが、これまでの状況だとい う報告を受けています。</p>
安里委員	<p>学校側の壁と親の壁と、教育委員側の壁と市の壁と、4つがあるとい うふうに、基本的に。全体的に、子どもたちに対してどういう支援 をしているのかわからない親御さんもいると思うので、ネットを開け ないとか、どうなっているのか意味がわからないとか、そういう声と かは私もよく聞かれるので、PTA関係もやっていたので、「一緒に話 し合いをする場がないよね」とよく言われるんです。</p>
議長（市長）	<p>これは保護者の方々ですか。</p>
安里委員	<p>保護者の方々です。私的には、やっていることは個人的には伝え て、きちんとやっていますよと。市のほうはちゃんとこうやっていま すからという、一人が一人に答えて一人から広げてくださいというの はちょっと無理があるんじゃないですか。その辺も対策は何か考えて もいいのかなと思っています。</p>
議長（市長）	<p>そうですね。</p>
安里委員	<p>何か起こす前はやっぱりこれが必要なもので、そうですね。</p>
学校教育課長	<p>このところあたりは大分、支援が必要な子どもについての…。</p>

惣慶委員	<p>そうですね。先ほど市長のお話の中で、声をかけて、「食事の提供をしていますので」と言ったら、「ああ、うちは一食でいいです」とか、やはりその辺が、活動されている女性団体の皆さんにとってはきっと歯がゆいところなんだろうと思って、すごく気持ちがわかるんですが、やはり根本的な部分での、市長もおっしゃっていた負の連鎖を断ち切るという部分では、私も居場所づくりにかかわったりもしていましたし、行政でもいろいろな工夫されているものはすごくいいんですが、やはり対処療法的になるのかと。根本的な改善になったときに、私も子どもを産んで育児をしていく中で、いろいろな悩みとか壁にぶち当たったりもしたんですけれども、やはり一番最初に子どもを産んだときの母親としての何か、何だろう、母親学級じゃないですけど、そういう育児の基本的な部分を学ぶ機会があれば、そこで困ったときにはこういう援助が市にたくさんあるよという部分ももちろん伝えていращやるかもしれないんですけど、もっと母親になる部分での、何かをつくり上げていく心の問題というか、資質の部分とかとの絡ませ方という部分で、困ったときは一人で絶対に抱えないで、周りの人とか。困っても何も恥ずかしくないんですよ的な伝え方というのか、何かわかる気がするんですよ。「うちは行かせません、そういう食事提供する場に行かせたくないです」というお母さんの気持ちも何となくわかる気もするし、そこの伝え方というか、浸透のさせ方をもう少し幼児、未就学児を抱えている段階で、何か根本的な解決ができればいいのかなという。すみません、ちょっと理想的、理想の話にしかないかもしれないんですが、そう感じました。</p>
議長（市長）	<p>そういう対策に向けて…、安里委員が言うように、お互いがみんな壁なのであれば、そこをまた一步踏み出して近づけるようにしたいですね。</p>
国吉委員	<p>いいですか。その件で今感じた、今のお話ですけど。 保護者のほうがうちはいいいよという話をされたということ、その子の学校のほうには伝わっているのかどうかですね。</p>
安里委員	<p>この壁があることね。</p>
国吉委員	<p>支援をやっていくと、保護者の考え方がこういうことですよ。だから、保護者面談とか、そういうときにまた学校の担任の先生とか、また本人から聞くとか、そういうことから解決。多分、親としての意地があるし、プライドとかがあって、「いや、要らないよ」というふう</p>

	<p>言っているかもしれないんですよ。だから、そういうことを身近な、そういう気心の知れた人と話をすることで。支援を受けることは恥ずかしいことじゃないんだよというような、また、この子どもがしっかり成長して立派になることのほうが大切なことですから。そういうことも含めて、情報をどのように共有して解決に持っていくかという部分も。この件だけでは、いろいろないじめの問題もありますけれども、そういう問題についてはやはり情報の共有の仕方と対応の仕方というものを、いろいろとみんなで知恵を出し合ってやる必要があるかなと思いました。以上です。</p>
議長（市長）	<p>ありがとうございます。 他に何かあればお願いいたします。 教育長からも、この件に関して何か。</p>
教育長	<p>いえ、もういいです。</p>
議長（市長）	<p>ないですか、皆さん、大丈夫ですか。 ご質疑がないようなので、協議事項は以上になります。 これをもちまして、平成30年度第3回豊見城市総合教育会議を閉会したいと思います。 皆さん、お疲れさまでした。</p>